



Team Dainan

八千代市立大和田南小学校
《校長室だより》
令和3年度 第25号
令和3年 10月18日

4年生 “届けよう，服のチカラ” プロジェクト

～6年生から4年生へ引き継がれる思い～



大和田南小学校では、ユネスコスクールとしてESD (Education for Sustainable Development の略で「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」)を推進していくため「届けよう，服のチカラ」プロジェクトに取り組んでいます。

“届けよう，服のチカラ”プロジェクトは、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)とファーストリテイリングが取り組む、小・中・高校生が対象の参加型の学習プログラムです。本校では、(株)ユニクロ フルルガーデン八千代店の方による出張授業を受けたのち、4年生の子供たちが主体となって着なくなった子供服を回収しています。回収した服は、難民などの服を必要とする人々に届けられることになっています。

今回4年生は、この取組を行うにあたり、6年生が現在取り組んでいる学習(校長室だより 23号参照)とコラボレーションをしました。6年生は、2年前に取り組んだときの気持ちや服の大切さについてプレゼンテーションソフトを活用しながら“ミニ授業”をしました。

ミニ授業は、一方的に6年生がお話をするだけでなく、4年生の子供たち一人一人に考えさせる場面やグループでの話し合いの場面を設けたり、自分たちで撮影した動画を見せたりとかなり質の高い内容でした。グループごとの話し合いで使った円卓(丸形段ボール)も6年生が普段の学習で使っているものです。6年生は、これまで学習を受ける側として学んだ経験を生かして、今回のミニ授業の内容を考えたのだと思われます。

4年生は、6年生からのお話を聞くことにより、服の持つ“チカラ”のことを再認識し、取組への意欲をさらに高めることができました。中には、「小さい頃の思い出が詰まった、服を寄付したことや難民の人にも温かみを感じてほしかったから」という6年生の思いを聞き、「泣きそうになりました」と感想に書いている子もいました。



4年生の感想の一端を紹介いたします。

- 今日の6時間目の話を聞いてもっとたくさん集めたくになりました。一瞬話を聞いて泣きそうになりました。でも、それぐらい難民の人たちに協力できたと思います。(奏明さん)
- 私は、2年生のとき小さくなった服をたくさん寄付しました。2年生のときは、何も気にせず箱に入れていたけれど、自分が4年生になると、難民の人たちの役に立ちたいと思いました。(心愛さん)
- ぼくは、6年4組と4年3組の気持ちが一緒だったことがとてもいいと思いました。こんなに4年3組を応援してくれてとてもうれしかったです。6年生の応援でぼくたちの心が燃えてきました。ぼくももっと服をあげたいと思いました。ぼくたちが6年生になったらその時の4年生たちに協力したい、思いを伝えたいと思いました。(純翔さん)
- 6年生の皆さんが応援してくれたおかげで、更にやる気が出ました。6年生の皆さんに応援されてうれしかったです。ぼくが次の6年生になったら、この経験をもとにその時の4年生を応援してあげたいです。6年生が箱に服を入れるときの思いや思い出のものをに入れてくれてうれしかったです。(颯真さん)
- ぼくも服の大切さがわかって難民のために服をもっと集めたくなくなってきました。2年生でもらったしおりをまだとってあります。(鳳真さん)
- 私たちの寄付する理由以外にも、思い出があったり、お気に入りだったりするのに寄付していると聞いて、驚きました。これを聞いて、もっと服を集めたくになりました。服は思い出もつまっていて、とても大切だと知りました。私も難民へますます寄付をしたくなりました。もっとレベルアップして、服の大切さを知りたくになりました。(理央さん)
- 私は、6年4組の人に大切なことを気づかされました。4年3組で集めるときは、難民の人のためになってほしいと思い出しました。6年4組さんが来て、服には「そう言えばいろいろな思い出があったな」と振り返ることができました。振り返ってみて、難民の人たちにもっと服を渡したいと思いました。(莉美さん)
- 私は、今日来てくれた6年4組の二人に少し忘れかけていた服の大切さを思い出させてもらいました。私もお気に入りだったものを難民の人たちに届けようと思いました。今日は、いろいろ思い出してきたので楽しかったです。これからも服の大切さを忘れないでいたいです。(絢さん)
- 2年生の頃、服のチカラプロジェクトと書いてある段ボールがあったので、見てみたら、難民を助けようや服を集めようなど書いてあって、どうして服を集めるのか疑問に思っていました。2年生の頃は、まだ興味をもっていませんでした。だけど、4年生になって自分でやるとき、段ボールに書いてあったことを思い出してやってみたら、書いてあった言葉にすごく泣きそうになってしまいました。なので、6年生に感謝したいです。(叶翔さん)
- 4年生は、集める側だけど、服を寄付している人はどんな気持ちかわかりませんでした。(思い出がある)自分の服を集めるのは少し嫌だったんだなと思ったけど、難民のためと思って寄付してくれているので、もっと集めるのを頑張ろうと思いました。(智美さん)
- この授業をして、改めて服の大切さを知りました。最後の動画(6年生からのビデオメッセージ)を見て、やる気が出て頑張りたいと思いました。(一聡さん)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2年ぶりに再開した「“届けよう、服のチカラ”プロジェクト」です。子供たちは、今できることを考え、精一杯頑張っています。ご家庭で、もう着なくなってしまった子供服がありましたら、お子様を通して学校にお持ちいただくと難民への支援になると同時に4年生の励みにもなります。ご協力をなにとぞよろしくお願いいたします。

【集めている服】

子ども服全般です。サイズ、ブランドは問いません。(下着・小物類は不可です。)

※洗濯をしたものをお願いいたします。